環太平洋研究図書館連合（PRRLA：Pacific Rim Research Libraries Alliance）—2017 年総会参加報告—

佐々木　智穂

1.　はじめに

2017 年 10 月 17 日から 20 日にかけて，中国・浙江大学を会場に，環太平洋研究図書館連合（PRRLA：Pacific Rim Research Libraries Alliance）2017 年総会が開催された。（写真 1・2）　筆者は今回，植木俊哉附属図書館長の随行員として参加し，口頭発表を行う機会を得たので，以下その概要を報告する。[1] なお今回の渡航は，平成 29 年度東北大学総長裁量経費（その他事業費）によった。

2.　PRRLA について [2]

PRRLA は 1997 年に環太平洋デジタル図書館連合（Pacific Rim Digital Library Alliance：PRDLA）として発足した。2015 年に現在の名称へ改称し，2017 年 12 月時点では環太平洋地域の 40 機関が加盟するコンソーシアムとなっている。[3] 当初はデータベース構築の共同プロジェクトを目的として結成されたが，現在では学術研究資料へのアクセス向上のための共同事業の推進を目的とし，「情報資源のデジタル化」「電子および冊子情報資源へのアクセス共有」「専門的知見の共有」「人材交流」「専門的能力の開発と研究」の各分野において，加盟機関間の協働や助成といった支援を行っている。

2016 年に PRRLA は環太平洋大学協会（Association of Pacific Rim Universities：APRU）[4] の関連組織となり，これを機に PRRLA より東北大学附属図書館長宛に加盟の打診があった。本学の里見進総長が APRU へ理事として参画していることや，グローバルな視点をもった職員の人材育成といった面で有益であることから，東北大学として PRRLA へ加盟することが決定した。2016 年 12 月には植木館長と奥村小百合情報管理課長（当時）の 2 名が，メルボルン大学（オーストラリア）にて開催された総会 [5] へ初参加している。2 度目の総会参加となる今回は，初めて口頭発表を行った。

写真 1　会場の浙江大学紫金港校区
（中央奥に見える建物が浙江大学図書館基礎館）

1　総会参加の速報については，下記拙稿にて報告を行っているので，併せて参照されたい。
佐々木智穂．環太平洋研究図書館連合（PRRLA）2017 年総会＜報告＞．カレントアウェアネス -E. 2017，no.338，E1979．http://current.ndl.go.jp/e1979，（参照 2017-12-07）．
2　http://pr-rla.org/，（参照 2017-12-07）．
3　日本からは関西大学と東北大学の 2 機関が加盟している。
4　1997 年設立。環太平洋地域の主要大学間の相互交流を深めることを通じて，同地域の重要な諸問題に対し教育・研究の分野から協力・貢献することを目的とした，研究型大学によるコンソーシアム。
https://apru.org/，（参照 2017-12-07）．
5　http://pr-rla.org/annual-meetings/melbourne-2016/，（参照 2017-12-07）．

3.　総会の概要[6]

名　　称： Pacific Rim Research Libraries Alliance（PRRLA）2017 Meeting（環太平洋研究図書館連合 2017 年総会）

テ ー マ： Challenges and Opportunities: PRRLA Libraries as Strategic Assets for Research（挑戦と機会：研究のための戦略的資産としての PRRLA 加盟図書館）

日　　程： 2017 年 10 月 17 日（火）～ 20 日（金）

開催場所： 浙江大学紫金港校区（中国浙江省杭州市西湖区）

参 加 者： 12 の国・地域の 34 機関から 62 名（内訳：中国 15 名，香港 9 名，マカオ 1 名，台湾 1 名，韓国 4 名，日本 2 名[7]，オーストラリア 2 名，ニュージーランド 2 名，カナダ 2 名，アメリカ 19 名，シンガポール 3 名，インドネシア 2 名）

今回の総会が開催された浙江大学[8]は，かつて呉越・南宋両王朝の首都として栄え，現在は浙江省の省都として発展を続ける古都・杭州に所在する。1897 年に「求是書院」として設立された中国で最も歴史のある大学の一つで，古くから「東洋のケンブリッジ」とも呼ばれていた。現在は北京大学や清華大学と並び称される中国トップクラスの総合大学へ発展しており，東北大学とは 2001 年に大学間の学術交流協定を締結している。杭州市内に 7 つのキャンパスを有し，2016 年 12 月時点で学生 48,762 名[9]，教員 3,502 名が在籍。学内に 5 つある図書館[10]の総蔵書数は約 615 万冊に上る。

会場となった紫金港校区は，杭州市街の北西に位置しており，主に学部課程の学生が学ぶキャンパスとなっている。

写真 2　（上）開会行事が行われた求是大講堂
（下）開会行事の様子

6　http://pr-rla.org/annual-meetings/2017-zhejiang,（参照 2017-12-07）.
7　今回日本からの参加は東北大学のみであった。
8　http://www.zju.edu.cn/,（参照 2017-12-07）.
9　学部課程学生 24,133 名，修士課程学生 15,092 名，博士課程学生 9,537 名。うち留学生は 6,237 名。
10　http://libweb.zju.edu.cn/,（参照 2017-12-07）.

4.　プログラムとセッション内容[11]

【10 月 17 日（火）】

- Casual Welcome Reception（歓迎レセプション）

【10 月 18 日（水）】

- Welcome and opening remarks（歓迎と開会のあいさつ）
- Group photo（記念写真撮影）
- Session 1：Digital scholarship/initiatives（デジタルスカラシップ／イニシアティブ）
- Session 2：Digital humanities and digital repositories as resources for research（デジタル人文学と研究資源としてのデジタルリポジトリ）
- Tour of Zijingang Undergraduate Library（浙江大学図書館基礎館ツアー）
- Session 3：Karl Lo Award Poster Sessions（カール・ロー賞[12] 受賞者ポスターセッション）
- Session 4：Unique collections and strategies for sharing these collections among PRRLA member libraries（ユニークなコレクションとこれらのコレクションを PRRLA 加盟図書館間でシェアするための戦略）(Part 1)

【10 月 19 日（木）】

- Session 5：Libraries in the research workflow（研究ワークフローにおける図書館）(Part 1)
- Session 6：Libraries in the research workflow (Part 2)
- Session 7：Unique collections and strategies for sharing these collections among PRRLA member libraries (Part 2)

【10 月 20 日（金）】

- Cultural tour（文化ツアー）

2 日間にわたった 7 つのセッションでは，口頭発表 16 件とポスター発表 2 件が行われた。[13] 紙幅の都合上すべての発表に言及することが難しいため，ここでは東北大学が登壇した Session 4 の内容について紹介したい。

(1)　*Wasan*― 和 算 ― (Traditional Japanese Mathematics) : digitization of unique collection at Tohoku University Library（和算：東北大学附属図書館におけるユニークなコレクションのデジタル化）/ Toshiya Ueki and Tomoo Sasaki, Tohoku University (Japan)[14]

東北大学の発表では「和算資料データベース（旧：和算ポータル）[15]」を中心に，附属図書館が取り組んでいるコレクションのデジタル化を取り上げた。(写真 3)

最初は植木館長から，東北大学と附属図書館の概要

写真 3　発表を行う植木館長（上）と筆者（下）

11　http://pr-rla.org/annual-meetings/2017-zhejiang/program/,（参照 2017-12-07）.
12　PRRLA の前身である PRDLA の設立と発展に尽力し，東アジア地域の図書館コミュニティにおいて主導的な役割を果たしたカール・ロー氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校）の功績を称えるために，2007 年に設立された。加盟機関の図書館員が申請資格を有し，受賞者には年ごとに最大 10,000 ドルの助成金（会議出席費，旅費，研究費，出版費等への支出が可能）が授与される。
13　各機関による発表資料は PRRLA のウェブサイトにて公開されている。http://pr-rla.org/2017/10/2017-meeting-presentations/,（参照 2017-12-07）.
14　http://pr-rla.org/wp-content/uploads/04_Ueki_and_Sasaki.pdf,（参照 2017-12-07）.
15　http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398wasan,（参照 2017-12-07）.

や，狩野文庫をはじめとする図書館コレクションについて紹介を行った。特に今回開催地となった浙江と東北大学との間の歴史的な関わりについても，近代中国を代表する文学者の魯迅[16]や，数学者の陳建功[17]，蘇歩青[18]両博士の紹介を交えつつ説明がなされた。

続いて筆者からは，まず「和算とは何か？」という点について，『塵劫記』などの和算書や，算額を例に説明を行った。中でも「ねずみ算」の解説は，その内容のユニークさから大変好評であった。

その上で，東北大学が所蔵する和算コレクション約 12,000 点の概要や，資料デジタル化プロジェクトの経緯と実際の作業手順，全文画像公開システムの構成について説明を行った。

また，和算資料データベース構築の意義についても，利用状況の分析結果から，同データベースが研究目的だけではなく，学校教育や生涯学習の現場でも広く活用されていることについて言及した。

最後に，図書館コレクションのデジタル化の今後の展望について，東北大学も参加する国文学研究資料館のプロジェクト「日本語の歴史的典籍の国際共同ネットワーク構築計画（NIJL-NW）[19]」の紹介や，PRRLA への東北大学デジタルコレクションのメタデータ提供の見通しについて解説を行った。

(2) What is Local Has Global Impact : Focusing Digital Strategies to Extend Research Capabilities（グローバルなインパクトを持つローカルとは：研究能力を拡大するためのデジタル戦略に焦点を当てて）/ Haipeng Li and Emily Lin, University of California, Merced (USA)[20]

アメリカ・カリフォルニア大学マーセド校は，同校図書館が提供する研究支援サービスについて発表を行った。

2005 年にカリフォルニア大学システムの 10 校目として開校した同校は，「21 世紀におけるアメリカ初の研究大学」とも呼ばれている。同校図書館では，教員・研究者・学生と協力し，デジタルツールを活用して研究・教育活動を支援するサービス “Digital Curation & Scholarship”[21] を展開している。

また同館では，GIS（Geographic Information System：地理情報システム）を活用した空間データ管理・地図作成・ウェブマッピングに関するプロジェクト “Spatial Analysis & Research Center：SpARC”[22] や，ビッグデータ解析・VR（Virtual Reality：仮想現実）の技術を応用した仮想現実体験システム “LibraryCAVE” といった研究支援プロジェクトの運営にも関わっている。

特に SpARC は，2017 年 7 月にカリフォルニア州で発生した大規模な山林火災の解析にも実際に活用されている。大学図書館が携わる最先端の研究支援サービスが，その大学の所在する地域が抱える課題[23]と直接リンクしている点がとても印象的であった。

5. 発表を終えて

今回の発表内容は，東北大学和算ポータル（当時）の 2010 年日本数学会出版賞受賞[24]を記念し，小田忠雄元附属図書館長と筆者の連名で，本学理学研究科数学専攻にて行った講演[25]を下敷きとしている。その後公表の機会を逸し，筆者の PC の中で 7 年間眠り続けていたが，今回ようやく日の目を見ることができた。学内の研究会で発表した内容を，国外へ出向いて英語で再度発表することで，国境を越えたより多くの人々に新鮮な知見をもたらすことができたのは，とても刺激的な経験となった。

16 現在の浙江省紹興市（杭州市の東隣に位置）の出身。仙台医学専門学校（現在の東北大学医学部）へ留学。
17 東北帝国大学で外国人留学生として初めて理学博士を取得。浙江大学教授，杭州大学副学長などを歴任。
18 東北帝国大学で理学博士を取得。浙江大学教授，復旦大学学長などを歴任。
19 http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/,（参照 2017-12-07）.
20 http://pr-rla.org/wp-content/uploads/04_Li_and_Lin.pdf,（参照 2017-12-07）.
21 http://library.ucmerced.edu/digital-curation-and-scholarship,（参照 2017-12-07）.
22 http://sparc.ucmerced.edu/,（参照 2017-12-07).
23 カリフォルニア州の夏は気温が高く，風が強い上に空気が乾燥するため，大きな山火事が発生しやすい。
24 http://mathsoc.jp/prize/pubprize/,（参照 2017-12-07）.
25 小田忠雄, 佐々木智穂. 東北大学和算ポータル－和算資料全文画像データベース－. 東北大学大学院理学研究科数学専攻談話会. 2010-07-05.

また今回の総会は筆者にとって，初めての国際会議での口頭発表の機会となった。筆者は英語が苦手なこともあり，参加が決定してから発表当日までは不安な気持ちでいっぱいであった。結果として東北大学の発表は参加者から好反響を得ることができ，発表後も会期を通じて（拙い英語ではあったが）他の参加者と楽しく交流を深められた。まさに「科学の世界の公用語は，へたな英語（プア・イングリッシュ）です。」[26] の言葉の真意を，身をもって体験する良い機会となった。

東北大学では 2018 年以降も PRRLA 総会への継続的な参加を予定している。将来の参加者においても，英語の得手不得手に関わらず，積極的に口頭発表へ挑戦することを，経験者としてはおすすめしたい。[27]

6.　おわりに

2 日目には，浙江大学図書館基礎館の見学ツアーがあった。（写真 4）　2003 年にオープンした同館は，従来型の図書館機能に加え，自由に利用できる PC 端末等の情報機器や，グループ学習室といった設備が充実しており，館内は学生の姿で溢れていた。

最終日の Cultural tour では，杭州の観光名所・西湖のほとりにある文瀾閣を訪れた。（写真 5）この文瀾閣は，清代に乾隆帝（在位：1735-1796 年）の勅命により編纂された漢籍叢書『四庫全書』の，7 部ある正本のうちの一つを収めるために建造された。[28] 太平天国の乱（1851-1864 年）で焼け落ちた後 1881 年に再建された蔵書楼，正面に設けられた防火用水を湛える人工池，楼閣内に

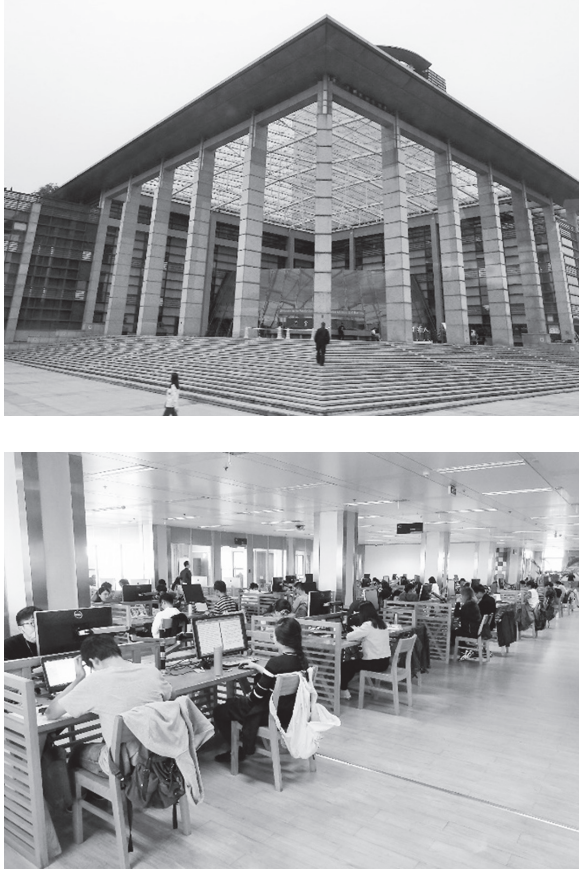

写真 4　（上）浙江大学図書館基礎館
（下）館内の様子

写真 5　（上）文瀾閣
（下）楼閣内の様子

26　福岡伸一．できそこないの男たち．光文社新書，2008，p.21.
27　口頭発表を行うメリットの一つに，初対面の相手との会話の糸口として役に立つ点が挙げられる。
28　現在は浙江図書館古籍部に所蔵されている。

残る堅牢な書庫は，人類の叡智の集積を後世に残すべく奮闘した人々の足跡を，現在に伝えていた。

今回の総会での発表は，複数機関が参加する大規模な資料電子化プロジェクトから，個別機関における研究支援の取り組みまで，内容は多岐にわたった。そこからは，各機関での研究・教育支援において従来よりも広範な役割を担いつつある，環太平洋地域における大学図書館の現在の姿を垣間見ることができた。

筆者が東北大学へ入職した 2005 年，当時の野家啓一附属図書館長は，普及が進みつつあった電子リソースをホルヘ・ルイス・ボルヘスの短編小説に登場する「バベルの図書館」になぞらえた上で，21 世紀の大学図書館のあり様について次のように述べた。

「おそらく 21 世紀の大学図書館は，ラムの愛惜した古き良き『ボドレー図書館』とボルヘスが構想した究極の『バベルの図書館』との間を行きつ戻りつしつつ，その理想的なあり方を求めて試行錯誤を続けていくことでしょう。」[29]

この一文が発表されてから早 13 年，その間「機関リポジトリ」「ラーニングコモンズ」「研究データ管理」といった新たな概念も登場し，国内外の各大学図書館では今なお様々な試行錯誤が続いている。そのような中で PRRLA の一員となった東北大学附属図書館は，今後本学の研究支援の分野において，どのような役割を担っていくのだろうか。そのようなことを考えながら杭州を後にした。

今後の PRRLA 総会は，2018 年は 9 月 16 日から 19 日にかけてアメリカ・カリフォルニア大学バークレー校にて，2019 年は韓国・高麗大学校にて，それぞれ開催予定とのことである。

謝　辞

植木俊哉附属図書館長には，今回の総会参加の機会を与えていただくとともに，会期中も初めての国際会議発表で緊張している筆者へ常に温かく接していただきました。心より感謝申し上げます。

平山博隆国際企画係長（国際交流課），千葉宏子氏（同国際企画係），水戸圭介主任（総務企画部総務課秘書室秘書係）をはじめとする本部事務機構の関係の皆さまには，会議のレジストレーションから渡航の手配，会期中に発生した突発的事態への対応に至るまで，常に手厚いサポートを頂きました。

発表の準備に当たっては，吉田芙弓氏（情報管理課雑誌情報係），小林真理絵氏（総務課学術情報基盤係）にご協力いただきました。上野美香氏（情報サービス課）およびウ・ジェナ・ウェン・ジュ，于楽，マヌエル・カンポスの各氏（以上留学生コンシェルジュ）には，発表原稿の英文校正に当たり多大なるご協力を頂きました。また，期を同じくしてインドでの国際会議に参加し口頭発表を行った吉植庄栄参考調査係長（情報サービス課）からは，国際会議での発表に関して有益なアドバイスを頂きました。

最後に，今回の総会の運営に当たられた PRRLA 事務局の皆さま，開催校の浙江大学の皆さま，総会に参加された PRRLA 加盟機関の皆さま，そして後期授業開始直後の繁忙期に快く送り出してくれた附属図書館の皆さまに，この場を借りて御礼申し上げます。

（ささき　ともお，附属図書館情報サービス課閲覧係長）

29　野家啓一．大学図書館の「原点」－館長に就任して－．木這子．2005，vol.30，no.1，pp.1-3．http://www.library.tohoku.ac.jp/about/kiboko/30-1/kbk30-1.pdf,（参照 2017-12-07）．